



炭そ病、すす点・すす斑病の果実感染予防のため、秋雨前の散布を徹底してください。また、8月中旬から早生・中生品種を中心にシンクイムシ類の被害が発生しています。次年度へ越冬防止のため、被害果の水没処理等を実施してください。

つがる等の早生種に炭そ病の果実病斑が発生しています。健全果へ二次感染防止のため、早めの薬剤散布と被害果を園地外へ運び出す等の対策を講じてください。

りんご

9月上旬の薬剤散布

◆ 散布日：9月 日
◆ 散布量： リットル

散布時期： 9月1日～5日（前回散布から15日後）

散布薬剤： 水 100 リットル

展着剤 10 ml

ストライド顆粒水和剤 66 g（前日、3回）*注意事項②、③参照

ダントツ水溶剤 25 g（前日、3回）*注意事項④参照

対象病害虫：炭そ病、すす点・すす斑病、褐斑病、斑点落葉病、シンクイムシ類、カメムシ類
キンモンホソガ、ギンモンハモグリガ、コナカイガラムシ類、リンゴワタムシ

散布量：10アール当たり 600 リットル

〔注意事項〕 *必ずお読みください。

- ① 曇天・降雨が続いている場合は、上記の日程より早めて散布する。
- ② ストライド顆粒水和剤は高温時に散布すると薬害（葉焼け他）を生じる恐れがあるので、涼しい時間帯に散布する。
- ③ ストライド顆粒水和剤に代えて、ベフラン液剤 25 の 1500 倍（前日、3回）でもよい。ただし、成分がイミノクタジンを含む薬剤（ベフラン液剤、ダイパワー水和剤）の合計使用回数は年間3回までとなっているので注意する。
- ④ 中生種等でシンクイムシ類の被害が目立つ場合は、ダントツ水溶剤の使用倍率を2000倍（100リットル当たり50g）に引き上げて使用してもよい。
- ⑤ 園地の外周等死角がないように、散布量は多めに設定する。また、過繁茂園では、薬液が樹内部まで到達するよう徒長枝切りや支柱立て等を散布前に実施する。

◆ 中晩生種の栽培管理については中生種栽培管理資料（H270821）をご覧ください。